

令和 5 年度 事業報告 / 決算 [概要版]



子育ての楽しいことも、大変なことも、
みんなで分かちあえるまちづくりを目指します！



ボランティアのきっかけづくりから活動まで、
トータルにサポート！



小さな悩みも、大きな不安も、地域の力と
社協の力と専門性で解決をサポート！



地域みんなで助けあい、支えあえる
やさしいまちづくりをサポート！



地域の中で支えあったり、ときにはプロの手を
かりながら、安心できる生活をお手伝い！



子どもから大人まで、幅広い世代に大切な
「福祉のころ」を育むきっかけづくり！

1 事業報告／総括

2 事業報告／重点的な取り組み

- ▶ 新たな取り組み
- ▶ 充実・強化
- ▶ 調査・研究

3 決算報告

- 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5月に感染法上の第5類に移行し、地域における支えあい活動や各種の集い・サロンなどの福祉活動が制限なく、概ね**コロナ前と同様に実施**できるようになりました。
- しかし、4年にわたるコロナ禍のダメージとして、「**住民の繋がりの希薄化**」や「**高齢者の心身機能の虚弱化**」が進み、地域福祉活動の**担い手の確保が懸念**されています。また、経済社会活動の回復の一方で、生活福祉資金のコロナ特例貸付が終了するとともに、円安等を背景とした物価上昇により生計の圧迫、**暮らしの不安定化**が増幅しています。
- こうした中で、**地域福祉の増進と安定した地域生活を支援**することを使命とする社会福祉協議会には、これまで以上の極め細かな施策対応が求められています。

- 柏市では、令和4年度から本会もその一翼を担う重層的支援体制整備事業を開始し、分野を問わない福祉相談を本会本部と「地域いきいきセンター」の各コミュニティにおいて個別課題に応じた支援を行なうとともに、同センターにおける「**支えあいの仕組み**」＝**地域づくり**を進めることとしています。
- 柏市独自の施策である「**地域いきいきセンター**」の**コミュニティワーク機能**と本会が有する**福祉の総合力**を有機的に連携して、市民の個別課題や地域課題の解決を目指して取り組んでまいります。
- 令和5年度は、市内10か所目となる「**新田原地域いきいきセンター**」を開設するとともに、こどもの貧困対策の一環として、こども食堂支援のための**食材保管庫の運営**と体操服等の**学用品給付等の事業**を新たに実施しました。
- 令和6年度においては、地域共生社会の増進と安心して暮らせる地域社会の構築のため、**新たな地域健康福祉像**を見据えた計画を策定し、地域福祉の向上に努めてまいります。

① こどもの居場所に係る新たな活動支援の実施

こどもの居場所活動等支援事業を柏市から新規に受託した。

食材の寄付受付・保管、団体間の需給調整及びこどもの居場所活動支援に係る情報発信を行った。



倉庫開放日



日本KFC等による、冷凍チキンの寄付受入れに係る調理実習を開催しました



このページをご利用できる団体

柏市の食材保管庫の利用申請・決定した団体で且つ本会が毎年3月頃に行う登録内容確認・届出書の提出があった団体のみが利用できます。(登録内容確認・届

食材在庫状況専用ホームページ

② 障害児の遊び・運動の場づくり

柏ふるさと公園内でインクルーシブ遊具が設置された「みんなの広場」において、市内放課後等デイサービスの協力を得て、障害のある子もいない子も一緒に遊び・交流する「インクルーシブDAY」（全5回）を開催した。



インクルーシブDAY

実施回数5回
参加施設8施設、児童数107名



スプリング・フェスティバル

参加者36名
学生ボランティア6名

③ 社会福祉法人地域公益活動の推進

社会福祉法人等ネットワークの設立に向けて検討を重ね、市内21法人が参画の意思を表明頂き、3月18日に設立総会を開催し、次年度に向けてのスタートを切った。



柏市社会福祉法人等ネットワーク 加入法人

彩会	高柳福祉会	緑の会
かたくり会	千草会	美野里会
共働学舎	千葉県厚生事業団	大和会
桐友学園	西口の杜	よつば
敬愛会	柏光会	涼風会
三誠会	豊珠会	ワーナーホーム
生活クラブ	マーナー・オーク・ガーデンズ	柏市社会福祉協議会

① 生活困窮者の生活再建に向けたフォローアップ支援

- 2か月に1回、電話等による生活や就労状況等の聞き取り
- 必要な福祉サービス等の情報提供や制度、支援へのつながり
- 償還猶予や免除に関する情報提供や手続きの支援

特例貸付と貸付額	R4 (金額：免除額)	R5 (金額：免除額)
緊急小口資金 3,243件 630,240,000円	猶予 36件／免除 803件 156,120,060円	猶予 23件／免除 180件 30,632,925円
総合支援資金 2,616件 1,308,085,000円	猶予 34件／免除 710件 366,425,000円	猶予 21件／免除 152件 73,107,370円
同 資金(延長) 1,411件 720,100,000円	—	猶予 6件／免除 318件 168,675,000円
同 資金(再貸付) 1,280件 666,120,000円	—	猶予 0件／免除 19件 9,210,000円
計 8,550件 3,324,545,000円	猶予 70件／免除 1,513件 522,545,060円	猶予 50件／免除 669件 281,625,295円

② 子どもの貧困対策の拡充

- スクールソーシャルワーカー等の相談支援機関を通じ、経済的課題等のある世帯の児童や生徒に体操服や文房具を配付。
- 希望する市内小中学校に体操服を配付し、学校での活用や先生を通じての支援を行う等、多方面からの支援を行った。

配付先	配付物	相談支援 機関経由	小中学校 への配付
小学生	体操服	27着	76着
	ハーフ パンツ	27着	65着
中学生	体操服	25着	20着
	ハーフ パンツ	26着	20着
計	体操服	52着	96着
	ハーフ パンツ	53着	85着

● 相談支援機関より

『汚れた体操服しかなく、不登校になりかけていた。支援により登校、教室にも入れた。』

『支援に入るきっかけにできた。』

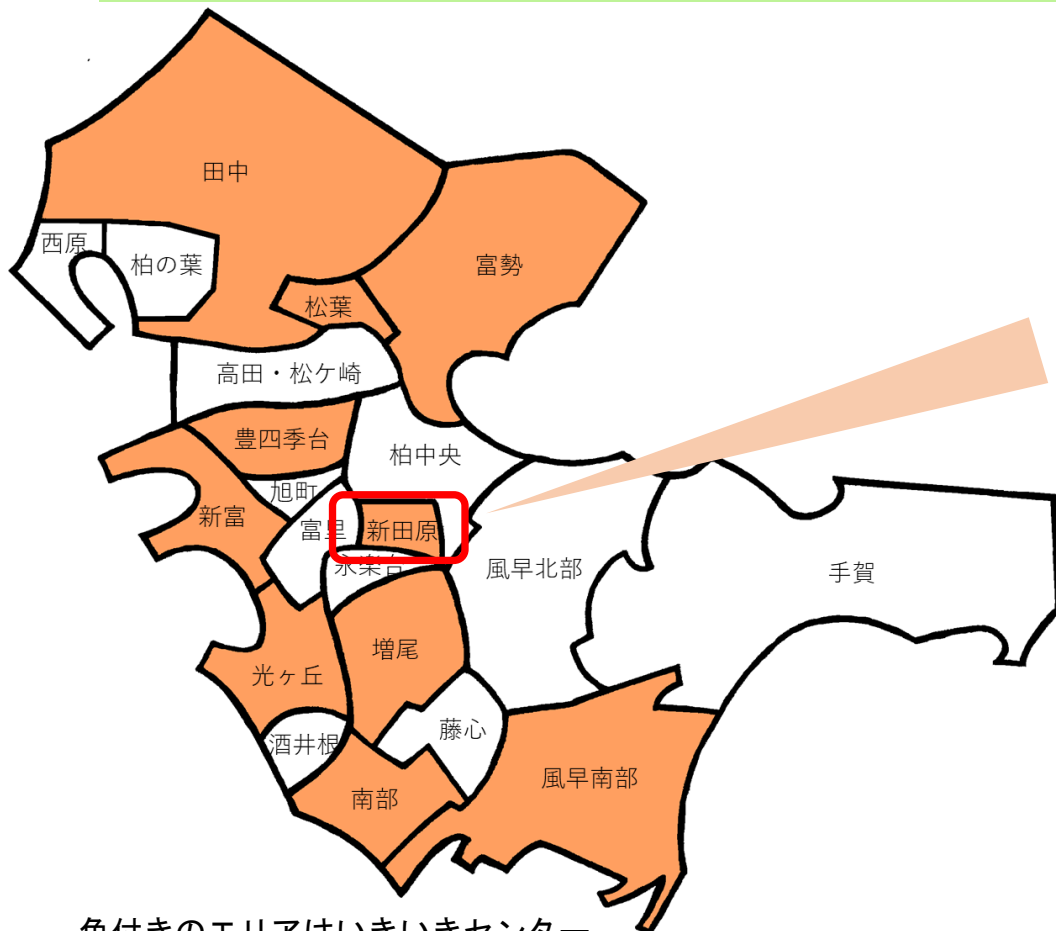
● 親の声や子どもの様子

『市販の体操服でも安くない。学校指定のものをいただけで嬉しい。』

『体操服を手に取り喜んでいた。』

③ 地域いきいきセンターの増設

新田原近隣センター内に、市内10か所目となる「新田原地域いきいきセンター」を開設。



色付きのエリアはいきいきセンター設置のエリア



新田原地域♡いきいきセンター

④ 一時預かり事業（ぞうさんルーム）の更なる拡充

10月から利用日を追加

[開催日時]

毎月第1・3・4火曜日及び毎週金曜日



毎週火曜日及び金曜日

時間は10時～16時（3時間又は6時間）

※令和6年5月より水曜日も実施日追加

[実施状況]

90回／240名



[場所：沼南社会福祉センター]11

⑤ 社協認知度の向上と会員制度の理解促進

会費パンフレットを改訂・発行（1500部）
各担当事業の講座・研修等で配付した。



つながる ありがとう

～柏市社会福祉協議会会員制度のご案内～

会費の種類と金額

お住まいの地域でみなさまが安心して暮らせるように、地域福祉の推進にご支援ご協力をお願いいたします。

- 住民団体会員 … 300円 / 1世帯(目安額として)
- 賛助会員(個人) … 1,000円 / 一口
- 賛助会員(団体) … 5,000円 / 一口
- 特別会員(法人等) … 10,000円 / 一口

社会福祉法人 柏市社会福祉協議会 総務課
〒277-0005 柏市柏5-11-8
☎ 04-7163-9000 Fax 04-7163-9300



みなさまの想いが柏の未来を支えています！

広がる笑顔

市内各地で住民が企画する交流イベントや研修等の活動(地域福祉活動)で、子どもから高齢者まで多くの方が支えあっています。



子どもから高齢者まで
子どもが遊ぶことももちろん、年がはいて、おうちの役割が変わる中で、お互いの福祉交流が大事です！

参加者からの感想
子どもが遊ぶことももちろん、年がはいて、おうちの役割が変わる中で、お互いの福祉交流が大事です！

コロナで休んで、子どもや高齢者の活動が再開されると、おうちの中、おうちの外で、お友達と遊ぶことができて、とても嬉しかったです。

ともに生きる地域

年齢、性別、障害の有無、国籍に関わらず、互いを認め合い、受け支え合える地域に育ち、共に支えあう地域の実現に向けて、緊急啓発活動を行っています。



参加者からの感想
自分自身も生き生きと活動し、支えあっている地域に育ちたい。実現できることを願っています。

子どもたちも、おうちで活動することができて、とても嬉しかったです。おうちで活動することができて、とても嬉しかったです。

つながる想い

幅広い世代を対象に、市内の福祉施設等で人と人がつながり(ボランティア活動)お互いに元気になる場が広がっています。



収入源の「声」
収入源の「声」は、地域福祉活動の推進に大きく貢献しています。収入源の「声」は、地域福祉活動の推進に大きく貢献しています。

皆さまから寄せられた会費

令和4年度 総額35,344,951円



Q & A

- Q. 社会福祉協議会とは何ですか？**
A. 柏市社会福祉協議会通称「柏社協」は、地域の課題や課題に対して、住民の皆様や福祉組織・関係者と協力しながら、解決に向けて取り組み、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができるように生きる豊かな地域社会づくりを推進する組織です。
- Q. 会費の意義とは？**
A. 福祉的なサポートは、誰もがいつ必要となるかもしれません。会費は、その時に備え、日頃から、福祉に対する理解や身元を支えあいについて、みんなで考え、行動するための地域福祉活動の貴重な財源として活用されています。
- Q. 会費の納入は任意ですか？**
A. 会費は、柏社協の活動にご賛同いただき、任意で納めていただくものです。制度の抜廃で困難や生きづらさを感じる方の支援や人と人をつなぐ地域交流を支えるなど、活動の充実に回り、皆様にご賛同をいただけるよう努めています。



令和5年度柏市社会福祉協議会 事業計画

基本方針	1 相談支援機能の充実	2 子どもの貧困や孤独・孤立への支援	3 地域共生社会の増進
重点的取組	新たな取組 子どもの貧困や孤独・孤立への支援 相談支援機能の充実 地域共生社会の増進	拡充・強化する取組 子どもの貧困や孤独・孤立への支援 相談支援機能の充実 地域共生社会の増進	調査・研究する取組 子どもの貧困や孤独・孤立への支援 相談支援機能の充実 地域共生社会の増進

① “食”をきっかけとした支援の仕組みについての検討

市から受託したこどもの居場所活動等支援事業以外に、生活に困窮する世帯での支援や社会福祉法人の連携による食に関する新たな支援の可能性について、協議、研究を行った。

② 地域活動者等の人材育成・確保の研究

地域活動者の発掘と本会事業の協力員等の確保を図るため、一体的に活動を案内できる「地域活動ガイドブック」を発行し、市民への周知を行った。

③ 今後の事業展開を踏まえた組織編制と拠点のあり方等の検討

本会の事業規模の拡大に伴い、令和6年度の組織改編の検討を行った。

④ ICTを活用した事務・事業の改善

スピード感のある意思決定や組織運営を行うため、講座やイベント募集等にkintoneを導入した。また、人事管理システムや顧客管理システム導入にあたっての検証を行った。

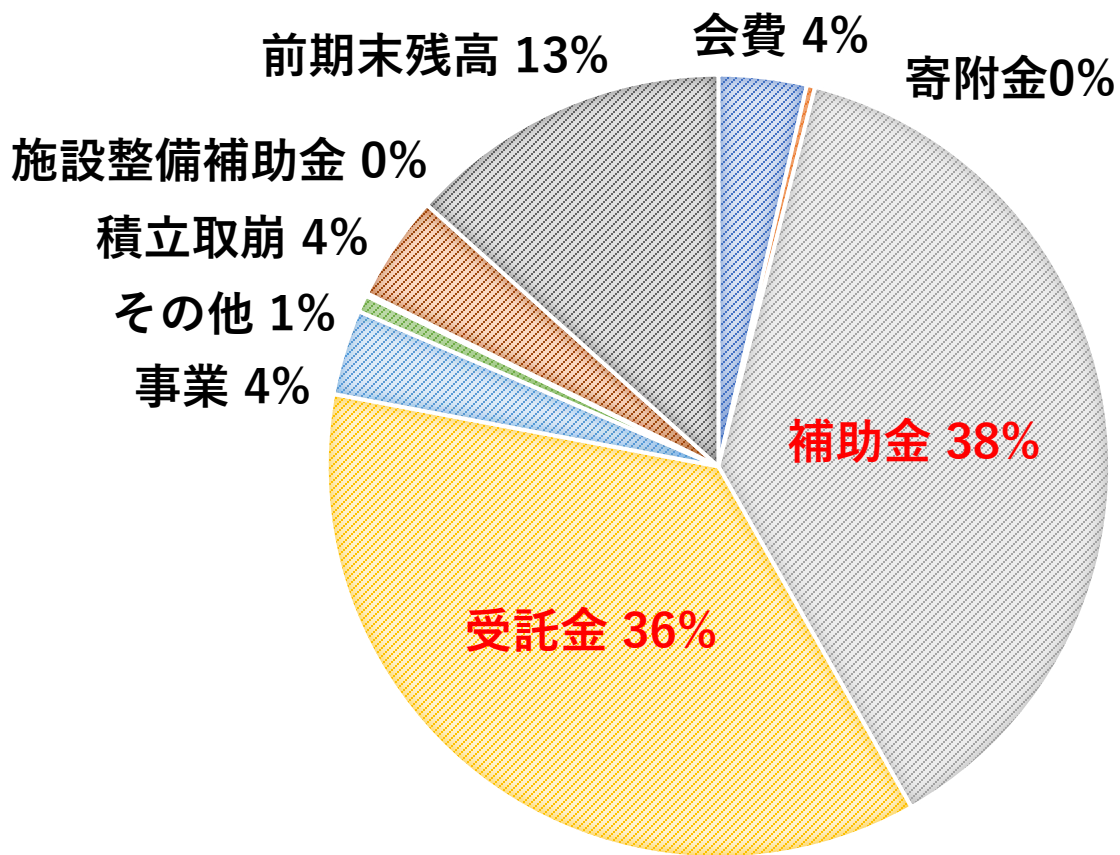
[収入の部]

(単位：円)

	科 目	決算額	前年度	前年比（増減）
事 業	会費収入	35,353,722	35,344,951	8,771
	寄附金収入	3,350,828	3,547,141	▲196,313
	補助金収入	368,096,656	359,455,048	8,641,608
	受託金収入	351,996,441	335,661,021	16,335,420
	事業収入（貸付・介護含む）	34,296,293	29,322,493	4,973,800
	その他収入	6,748,057	4,591,716	2,156,341
施 設	施設整備等補助金収入	1,067,000	0	1,067,000
その他	積立資産取崩収入	42,403,099	36,104,795	6,298,304
—	前期末支払資金残高	130,007,891	131,459,381	▲1,451,490
	収入合計	973,319,987	935,486,546	37,833,441

[資金収支計算書]

財源割合



補助金と受託金の公費財源が
全体の**74%**を占めている

[支出の部]

(単位：円)

●科目別

	科 目	決算額	前年度	前年比（増減）
事 業	人件費	545,380,888	505,475,862	39,905,026
	事業費	33,355,205	36,157,986	▲2,802,781
	事務費	154,230,844	165,385,428	▲11,154,584
	貸付事業費	14,560,060	15,177,090	▲617,030
	助成金支出	37,546,800	36,132,106	1,414,694
施 設	固定資産取得	2,915,280	5,011,769	▲2,096,489
その他	積立資産支出	47,628,833	42,138,414	5,490,419
	支出合計	835,617,910	805,478,655	30,139,255

(内部取引消去)

[支出の部]

(単位：円)

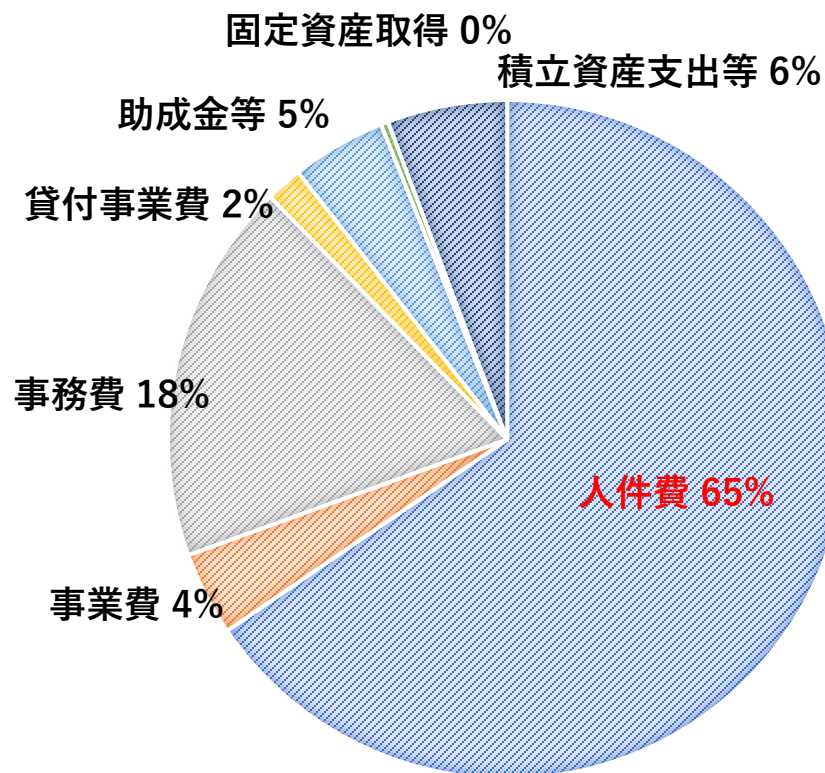
●事業別

	事業名	決算額	前年度	前年比（増減）
社福	法人運営	186,236,783	175,582,781	10,654,002
	地域福祉推進	295,873,720	286,293,881	9,579,839
	共同募金配分金	22,738,449	23,469,894	▲731,445
	施設管理運営	101,112,880	103,723,541	▲2,610,661
	資金貸付基金運営	55,497,350	41,402,105	14,095,245
公益	施設管理運営	13,186,845	17,097,760	▲3,910,915
	在宅福祉サービス	160,971,883	157,908,693	3,063,190
	支出合計	835,617,910	805,478,655	30,139,255

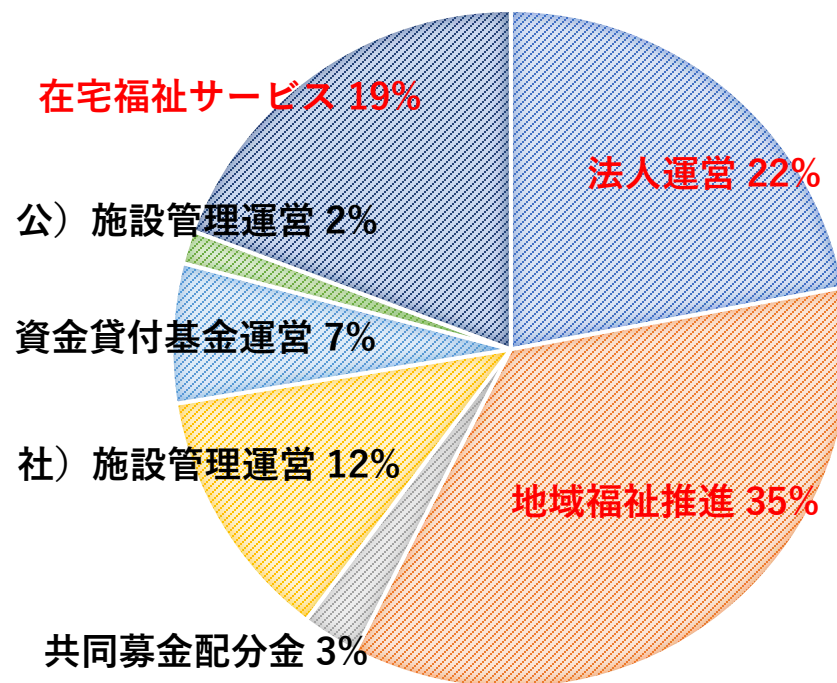
(内部取引消去)

[資金収支計算書]

支出割合（科目）



支出割合（事業）



収入合計額 973,319,987円 — 支出合計額 835,617,910円

当期末支払資金残高 **137,702,077円** (次期繰越)

[前年度 130,007,891円 (7,694,186円)]

(単位：円)

科目	決算額	説明
サービス活動増減差額	▲7,596,520	本業（福祉サービス）における利益 [前年比：▲1,273千円]
経常増減差額	▲1,404,077	総合的な収益（経常利益） [前年比：2,309千円]
当期活動増減差額	▲24,255,219	1年間の経営成績（当期純利益） [前年比：▲20,565千円]
当期末繰越活動増減差額	238,832,184	当期活動増減差額＋前期繰越活動増減差額 [前年比：▲23,550千円]
次期繰越活動増減差額	239,519,738	当期末繰越活動増減差額＋積立金取崩－積立 [前年比：▲23,568千円]

[貸借対照表]

[決算書（計算書類等）5頁]

(単位：円)

科目	決算額	説明
流動資産	286,283,534	前年比：30,848千円 現金預金の増、事業未収金の減
固定資産	779,774,870	前年比：▲8,201千円 基本財産等の減価償却による減 ※沼南社会福祉センター（建物）の減価償却 積立資産の増 ※退職給付引当資産、長期貸付金の増
流動負債	173,879,406	前年比：48,452千円 事業未払金・未払費用の増 賞与引当金の増 ※新たに賞与引当金を計上
固定負債	84,483,169	前年比：5,913千円 退職給与引当金の増
純資産の部	807,695,829	前年比：▲31,718千円 国庫補助金等特別積立金、その他の積立金、 次期繰越活動増減差額の減

●サービス活動増減差額 [サービス活動収益－サービス活動費用] (単位：円)

	R3	R4	R5
	9,633,485	▲6,323,486	▲7,596,520
サービス活動収益	745,806,947	753,886,665	780,283,574
サービス活動費用	736,173,462	760,210,151	787,880,094

法人本来の事業活動の成果であり、安定的、継続的に福祉サービスを提供するためには、**プラス**であることが必要

●事業活動資金収支差額率 [事業活動資金収支差額÷事業活動収入×100(%)]

	R3	R4	R5
	2.2%	1.2%	1.8%
事業活動収入	759,965,786	767,922,370	799,841,997
事業活動支出	743,096,349	758,328,472	785,073,797
事業活動資金収支差額	16,869,437	9,593,898	14,768,200

資金の**収入支出のバランス**を示す指標で、資金獲得能力を示す。**プラスであることが要求される**

[安全性]

(単位：円)

●流動比率 [(流動資産 ÷ 流動負債) × 100 (%)]

	R3	R4	R5
	183%	204%	165%
流動資産	289,611,502	255,435,658	286,283,534
流動負債	158,152,121	125,427,767	173,879,406

短期(1年以内)に支払義務のある負債と現金化できる資産の比率で短期的な**支払能力**を見るもの**200%あれば十分**と言える

●当期末支払資金残高 [流動資産 - 流動負債]

	R3	R4	R5
事業活動収入月分	2.1月	2.0月	2.1月
	131,459,381	130,007,891	137,702,077

運転資金を意味する。一般に事業活動収入の**2~4か月程度**を目安とする

●純資産比率 [(純資産 ÷ 総資産) × 100 (%)]

	R3	R4	R5
	79%	80%	76%
純資産	851,760,005	839,413,871	807,695,829
総資産	1,081,751,807	1,043,411,519	1,066,058,404

値が高いほど負債の支払負担が小さく、**長期持続性**が高い**50%以上が望ましい**が、値が高い場合でも大規模改修等の積立が確保されていることが望ましい

[社会福祉充実残額]

- 社会福祉法人は、その保有する財産について、事業継続に必要な財産を控除したうえで、再投下可能な財産（社会福祉充実残額）がある場合は、地域の福祉ニーズ等を踏まえ、社会福祉充実計画を策定し、当該財産を地域公益活動に活用していくことが求められている（社会福祉法第55条の2）

[本会における社会福祉充実残額の算定]

活用可能財産	活用中の不動産等	年間事業活動支出
621,319,788円	－ (329,699,082円	+ 785,073,797円)

(1万円未満切捨) **▲493,453,000円** ※0円以下となり
社会福祉充実計画の策定なし